

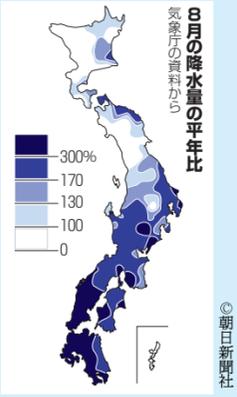
いまがわかる

ニュースあれこれ



8月降水量、西日本で過去最多 前線停滞が影響

気象庁は1日、西日本(近畿、中国、四国、九州北部・南部)の8月の降水量は平年の3.31倍で、1946年の統計開始以降、8月として過去最多だったと発表しました。地方別では、関東甲信などでも8月の最多を更新しました。8月中旬から下旬にかけ、本州付近にとどまった前線が大雨をもたらしました。



ことば **前線** 冷たい空気のかたまりと暖かい空気のかたまりの境界線のこと。温暖前線、寒冷前線、停滞前線、閉塞前線の4種類に分けられます。



ワクチン2回で発症率9割減 接種後でも陽性の例も「対策続けて」

新型コロナウイルスワクチンの有効性を調査した結果、ワクチンをうった人はうっていない人に対し、発症率をおよそ9割減らせる可能性があることがわかりました。国立感染症研究所が発表しました。調査は今年6～7月、東京都内の5医療機関を受診した発熱などの症状がある1130人を対象に行いました。



一方、ワクチン2回接種後でも陽性になる例もあり「ワクチン接種者でも感染対策を続けることが重要」としています。

日付は現地時間。記事の一部は朝日新聞社の提供です

オリパラの号外をウェブ公開



東京オリンピック・パラリンピックの号外

9月末まで 読者限定

東京オリンピック・パラリンピックの期間中、学校向けのデジタル版サービス「朝日小学生新聞」の号外を、朝小の読者限定で9月末まで公開します。熱戦を振り返り、学習などにお役立てください。

デジタル版サービス「朝日小学生新聞」デジタル for School」で配信した号外を、朝小の読者限定で9月末まで公開します。熱戦を振り返り、学習などにお役立てください。

朝日小学生新聞社のサイト(www.asagaku.com)の「読者限定コンテンツ」にユーザー名(asagaku)とパスワード(asagaku+)を入力してご覧ください。

朝日小学生新聞社
「ほっとニュース」は休みました。



体で表現できることは無限

ダンサー・
振り付け家
振付家

森山開次さん

東京パラリンピックの開会式で振り付けを手がけるなど、国内外で活躍するダンサーで振り付け家の森山開次さんの初めてつくったバレエ作品「竜宮 りゅうぐう」が今月23日、大阪市で上演されます。森山さんは子どもたちに向けて「体で表現できることに限りはない」と話します。(中塚慧)

「竜宮 りゅうぐう」は、森山さんが題材選りから演出、振り付け、衣装のデザインなどを手がけました。新国立劇場バレエ団の「こどものためのバレエ劇場」シリーズの作品です。

テーマは、おとぎ草子の「浦島太郎」。浦島太郎が助けた亀は、竜宮城の姫でした。その「亀の姫」に招かれて、浦島太郎は竜宮城へ。やがて二人は恋に落ちます。個性豊かな魚たちの舞

1973年、神奈川県生まれ。2005年、ソロダンス「KATANA」でアメリカのニューヨーク・タイムズ紙に「脅威のダンサー」と評された。日本ユニセフ協会「世界手洗いダンス」の振り付けでも知られる。



奥村康祐さん(左)が演じる浦島太郎と、池田理沙子さん(右)が演じる亀の姫。鹿摩隆司さん撮影

23日に大阪市で上演

「第59回大阪国際フェスティバル2021 新国立劇場 こどものためのバレエ劇場『竜宮 りゅうぐう～亀の姫と季の庭～』」は、大阪市のフェスティバルホールで9月23日(木祝)午後2時開演。問い合わせはチケットセンター(☎06・6231・2221)や同ホールのウェブサイトから。

「シンプルな動きで、はかりしれないことを表せるバレエの懐の深さ、広さにふれました。日本の文化や風土も伝えたいと、伝統芸能の歌舞伎や能の要素もとり入れました。」

おとぎ草子の浦島太郎は、よく知られるお話と少しちがいます。玉手箱を開けておじいさんになってからも、続きがあります。「新たな浦島太郎の物語を、体験してほしい」

「選手の動きの美しさ、着地を決めた後のガッツポーズ、手をあげる仕草など、夢中になって何度も見ました。『動き』に興味を持つ原点かもしれません」

ダンスとの出会いは20歳を過ぎてから。ミュージカルの研究所でバレエも教わりました。バレエでは、足を外向きにする姿勢が基本ですが、森山さんは子どものころから内股でした。「バレエのレッスンは今でも苦行です」と告白します。一方で「バレエを経験したこ

とで、自分の動きに幅が生まれた」といいます。

東京パラリンピックの開会式では、公募キャストやプロのダンサー一人ひとりと「真剣に向き合い、一つにまとめること」が森山さんの役割でした。「WE HAVE WINGS(私たちに翼がある)」をテーマに、「飛ぶ」表現を追求しました。「実際にフライングしなくても、飛ぶことはできます」

空想したことを形にするために、どうしたらそう見えるのか、どう動いたら人に届くのか。「体で表現できることは無限だよ」と子どもたちに伝えていきたいです



みんなの回答

8月23日付の「見るみるわかる」の「電気をつくる海の巨大風車」の記事を読んで、読者のみなさんが地球温暖化を防ぐための具体的なアイデアを送ってくれました。一部を紹介いたします。

◇
二酸化炭素を減らすため、多くの人に自転車に乗

ってもらえるようにする。一つの家庭に1台、自転車王国や市が配って、自転車道を多く作る。(小幡ほか・神奈川県・3年)

だれもない部屋の電気を消したり、エアコンを使う代わりに窓を開けたりするなど、基本的なことを徹底して行う。(森口純寧・東京都・6年)

石炭や石油を使わず、自然エネルギーを使って走る車をつくる。(三木優翔・

東京都・5年)

日本には温泉がたくさんあるので、そのエネルギーを発電に使う。気温が低い日は「エアコン・ゼロ・デ」にして、みんなで協力する。(楠紗奈・大阪府・5年)

紙は燃やすと二酸化炭素が出るので、紙に何かを書くとではなく、何度も洗って使える布に書くのがいいと思います。(稲生帆南・大阪府・6年)

パラ開会式で「飛ぶ」表現追求